第 41 回中部地区英語教育学会　福井大会　　2011 年 6 月 26 日
英語教育研究法セミナー

効果的なタイトルと要旨

浦野　研（urano@ba.hokkai-s-u.ac.jp）
北海学園大学

０．要旨

タイトルや要旨は論文や学会発表の「顔」であり、その論文を読むかどうか、発表を聞くかどうかを決めるためにまず目を通すものである。実際に読んだ論文や聴いた発表が、要旨やタイトルから想像していた内容と異なるためにがっかりするといった経験も少なくなく、著者と読者、発表者と聴衆をうまく結びつけるためにも研究内容を適切かつ効果的にタイトルと要旨にまとめることが重要である。さらに、発表可否決定の審査のある学会では、タイトルや要旨が審査対象となるため、研究業績を積み重ねるといった視点からも、良いタイトルと要旨の作成は極めて重要である。

そこで今回のセミナーでは、発表者のこれまでの論文・学会発表の審査経験をもとに、効果的なタイトルのつけ方や要旨の書き方について提案する。また、実際にタイトルや要旨を書く時に注意すべき点などについてもお伝えしたい。

１．なぜタイトルと要旨の話をするか

1-1. 大前提

- 論文（研究発表）は、できるだけ多くの人に読んで（聞いて）もらうことが重要。
- 研究の価値は、どれだけ読んで（聞いて）もらったか、どれだけ参考にしてもらったかで決まる。

1-2. どうしたら読んで（聞いて）もらえるか

- まずは目につかないといけない。
- どこで？
  - 学会発表ならプログラム
  - 論文なら目次
  - インターネットや論文データベース等の検索システム
    - プログラムや目次をパラパラ見たときに目を引くタイトルをつける必要がある。
    - 検索でヒットするように、適切なキーワードをタイトルや要旨に含める必要がある。

２．効果的なタイトル

2-1. American Psychological Association (2010) のガイドライン

- A title should summarize the main idea of the manuscript *simply* and, if possible, *with style*.
  - シンプルに
  - かっこよく
- A title should be fully explanatory when standing alone.
- Avoid words that serve no useful purpose. (p. 23, italics added)
  - 「の研究」「の考察」のようにその研究固有の情報を含まないものは極力排する。

2-2. その他の注意点

- 自分と似たような研究をする人が検索したときにヒットしやすい用語を入れる。
- 大きすぎる題名は避ける（白畑・若林・村野井, 2010, p. 240）。
  - 例えば、「日本語母語話者による英語習得研究」を１本の論文で語り尽くせるとは思えない。

３．効果的な要旨

3-1. American Psychological Association (2010) のガイドライン

- A well-prepared abstract can be the most important single paragraph in an article. Most people have their first contact with an article by seeing just the abstract, usually in comparison with several other abstracts, as they are doing a literature search.
- A good abstract is:
  - accurate,
  - nonevaluative,
  - coherent and readable, and
  - concise. (p. 26)

3-2. 要旨に含めるべき情報とその順序

- 以下の内容を以下の順に述べるのが一番わかりやすい。
  - 目的に至る背景（ここの分量で長さを調整すると良い）
  - 研究目的（これが一番大事。できれば１文でビシッときめる。）
  - 研究方法（できるだけ具体的に。）
  - 主な結果（研究目的に直接関わる部分を中心に。）
  - 結論・示唆（結果との結びつきを意識して。）

3-3. その他の注意点

- 箇条書き等を極力使わず、文章で書く。
- 語数（字数）制限がある場合、できるだけ制限値に近いところでまとめる。
  - 制限語数（字数）を埋められないほどスカスカな研究なのか。
- 研究発表の要旨の場合、「結果は当日口頭にて発表する」はできれば避けたい。
  - 要旨を書く段階で細かい分析が終っていない場合でも、主な結果だけでも載せる。
  - 発表許可者選抜がある場合、これでは絶対落とされる。

４．その他の注意事項

- 提出前にもう一度目を通し、誤字脱字等がないことを確認する（自戒を込めて）。
- 第三者（できれば自分の研究内容を知らない人）に読んでもらう。

５．引用文献

- American Psychological Association. (2010). *Publication manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.
- 白畑知彦・若林茂則・村野井仁. (2010). 『詳説　第二言語習得研究：理論から研究法まで』. 東京: 研究社.